

米国のオレゴン州のポートランドでは、環境共生の街づくり、時代の先端を行く商業づくり、住民主体の地域コミュニティづくりにより、持続可能な社会が形成されている。全米で最も環境に優しい街、暮らしたい街に選ばれ、伸びやかな都市成長を続ける背景には、単なる環境に配慮したハードな建築・設備だけでなく、そこには完成されたソフトとハードが重層したスマートシティがある。

スマートシティでは、環境に配慮した交通機関や自然再生エネルギー設備、省エネ建築などのハード設備以上に、そこに暮らす人々の考え方や暮らしぶりと

専門家は **商い創造研究所 松本大地**

くまろ **真のスマートシティをつくるには**

ったライフスタイルをつくるのが重要である。

具体的には、環境共生型の暮らしを志向するグリーンライフ、地産地消を重視するローカルプロデュース、倫理的、道徳的な消費を志向するエシカル消費、そこに人と街との絆といった社会関係資本であるソーシャルキャピタルが備わること、モノの先にある新しいライフスタイルを創造する暮らしづくりが醸成されていく。さすれば持続可能な社会を志向する人々が集まり、地域コミュニティの人間関係も保たれ、暮らしに役立つ学校や図書館、病院、新鮮な食材や日常生活を支えるモノが入手できる商店街などの商業施設も同じベクトルに向かっていく。

それを達成するには第一に、ただ何となく環境配慮の仕掛けや生活利便性のモノがあるだけでなく、衣食住遊学に至るまですべてにサステナビリティが背骨になる一本の筋を通し、次世代に繋げていくこと。

第二に、暮らす人であっても日々の消費の場で地球環境や社会問題を考え、持続可能な生活行動をとることである。それが本来の真のスマートシティの定義となるべきだろう。スマートシティのシティが、「同じ目的や利益を共有する集合体」とするならば、地球に優しく、環境に人に優しい生活が、住まう人にとってどれだけのメリットを共有できるかが問われてこよう。